



俺様

の

花嫁
奴隷

1

夏生 恒

Kou Natsuo



俺様の シークの

花嫁 奴隷

第1話
私をさらう
しゃくねつ
ひと
灼熱の男

夏生 恒
Kou Natsuo



ああッ

やあッ

アアッ

ふあッ



死んじやう
から…つつ

ダメ
ダメ

死んじやう…



体は
イヤがってないぞ



あッ

ダメ…

おかしく
なる…ッ



ここから逃げて
どこへいく?

なぜ逃げようと
した?

街の外は
果てのない
砂の海だ

女の身では
一日で力尽きて
しまうぞ?

ああ
ダメ...

...ねが...
お願い...
もう...

ああッ

あッ

アアッ

おとなしく
このまま
オレのものに
なればいい

夜毎
オレの訪いを待ち
オレに抱かれ
オレの子を孕み

産み育てるんだ

ちがう
そんな…

日本から
遠く離れた
砂漠の国に
理由も知らされず
連れてこられて

そんなのが
欲しいんじや
ないも…

んん…
つつ

どんな
ぜいたくも
させてやると
いったらどう？
それ以上
何を
望む？

あッ

あッ

アアッ



わからない
女だ

オレの
妻になれと

世界を
くれてやると
いつているのに



あーッ

ああッ

どうして
私を選んで

出すぞ…ッ

あッ

ダメ
ダメ…ッ

アアア…ッ

繰り返される
睦言

ああッ

あッ

どうして
ここへ

連れてきたの…?





なんか
きらびやかな
集団

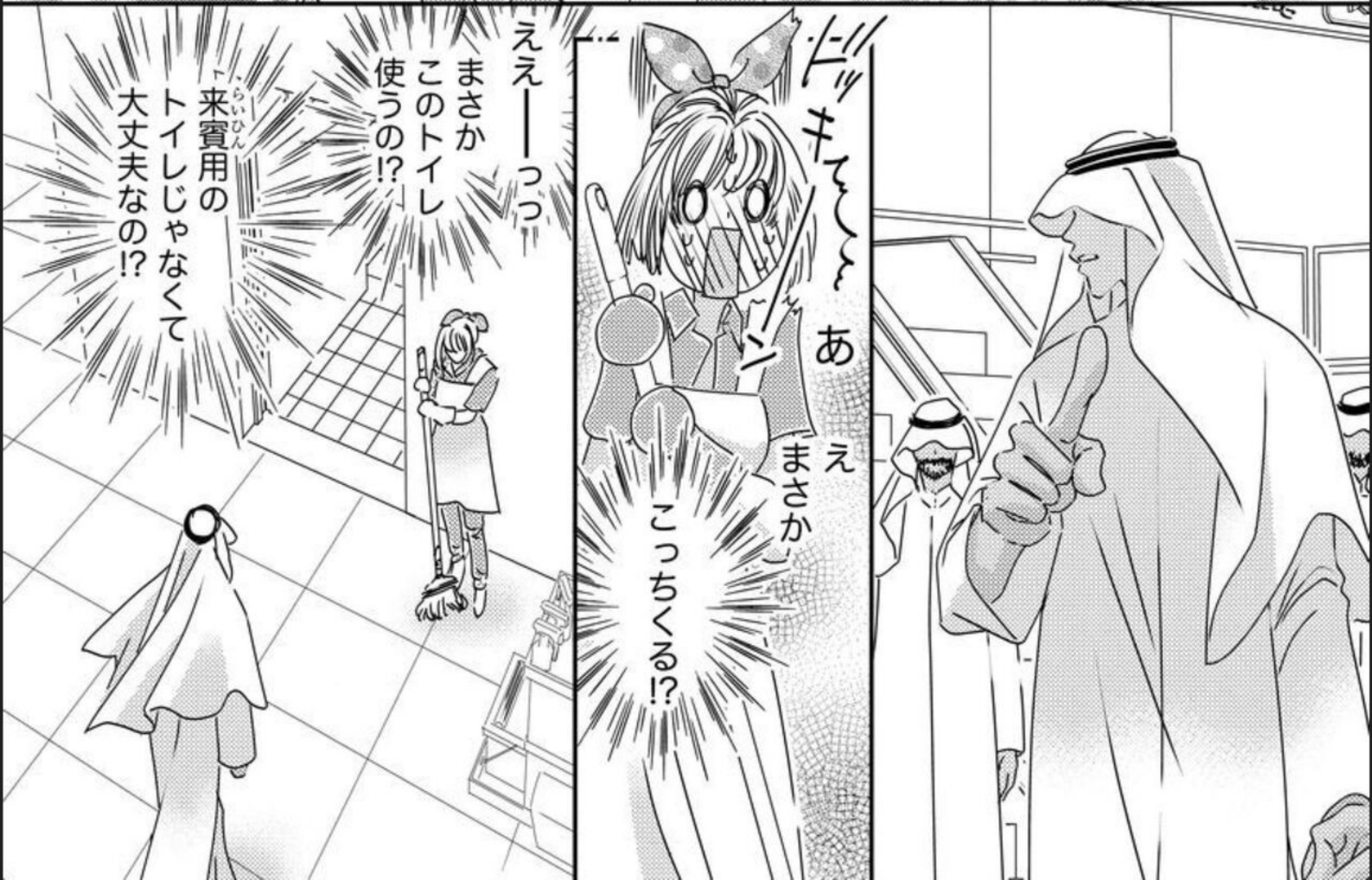


あそこだけ
アラビアン
ナイトな
世界...

そういえば
院長先生が
「今日は
VIPなお客様が

院内の施設を
視察にくる」って
いってたっけ...

わー
目の保養...



ええ——つつ

まさか
このトイレ
使うの!?

「来賓用の
トイレじゃなくて
大丈夫なの!?

あ

まさか

こっちくる!?



起きなきゃ...

仕事...

ん...



グッ?

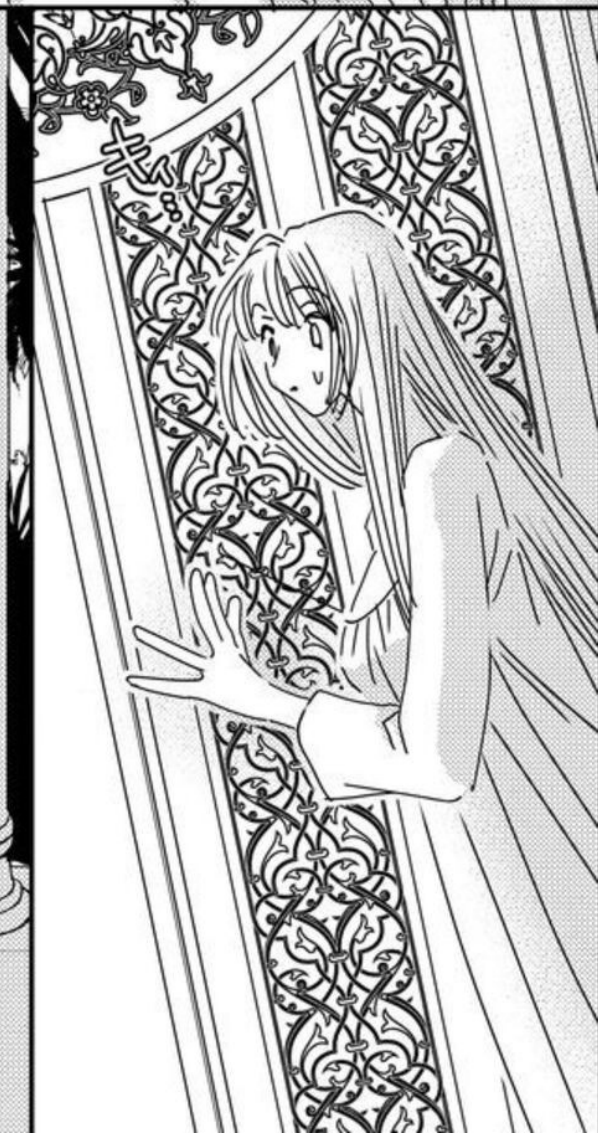
.....は?



どっかの
テーマパーク...?

エ
.....

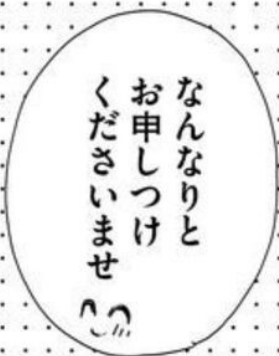
お目覚め
ですか
奥方様





あの…その
アルド様って…？

はあ…



なんなりと
お申しつけ
くださいませ
ひつ



私
ハカと申します

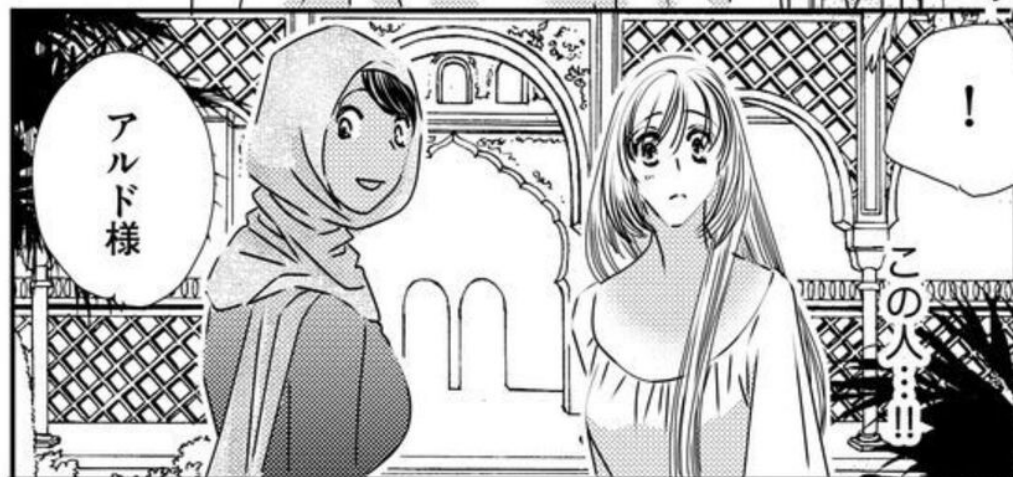
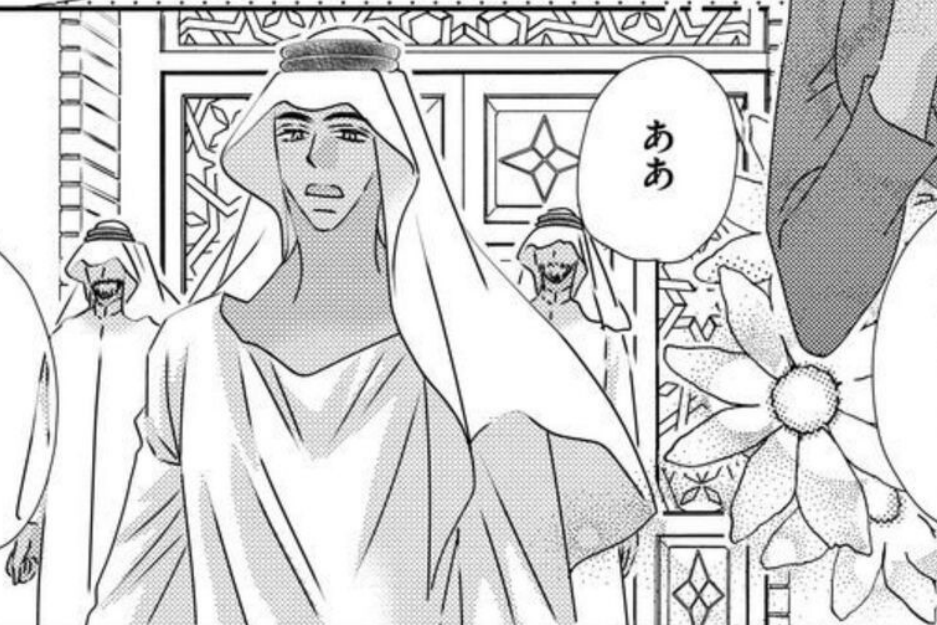
奥様方の
お世話をさせて
いただくよう
アルド様から
仰せつかりました



ああ



目が
覚めたのか

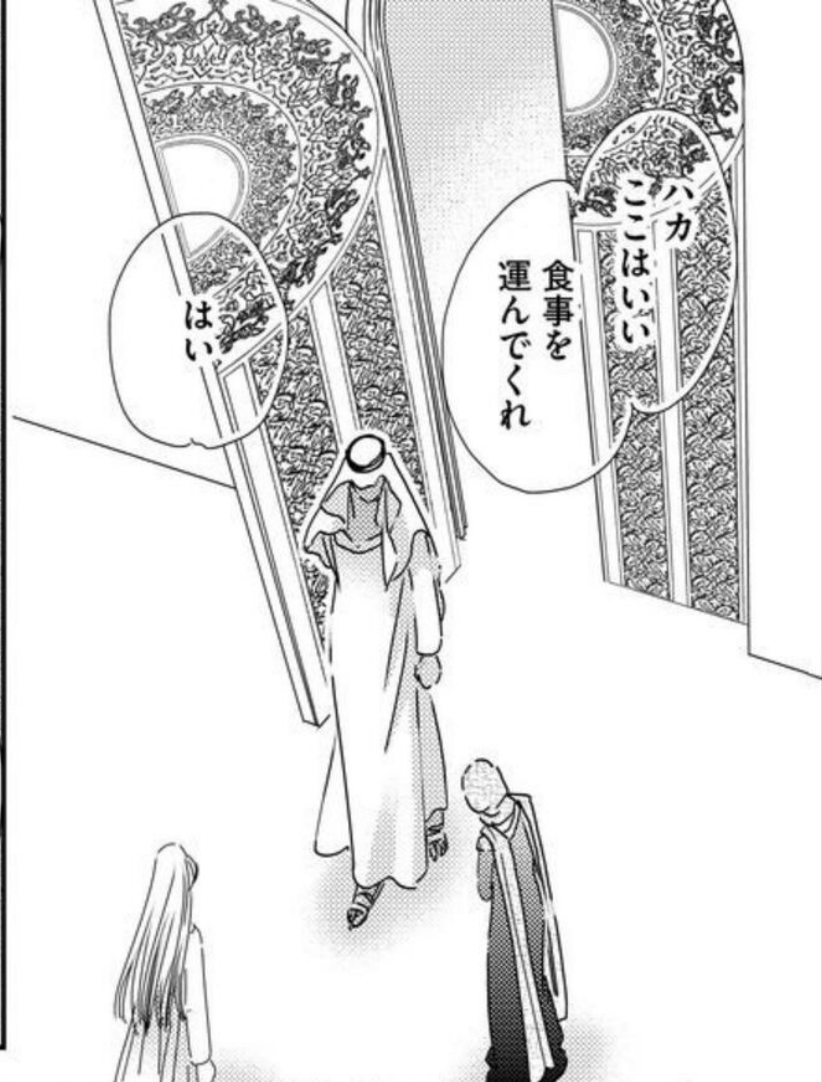


アルド様



！

この人





おまえが現在
いるのは
ハサラファーズ!

中東の砂漠に
囲まれた
私の国だ



うそ…

だって
さっきの女の人…
あなたも日本語
しゃべってるし…

オレは
小さい頃
日本で
育ったから

ハカは日本語が
流暢だから急きょ
おまえ付きの
女官として
採用した

これ以降も
人員を
増やしていく
予定だ



アブド

病院に
電話…つつ

電話させて
ください…つつ
くくく

無断欠勤ツ!!

これ以降
…って…
あつつ

そういえば私
仕事…つつ

はっ

とろとろ
とろとろ
とろとろ



院長先生…ツ

も…つつ
もしもつつ



あーッ
カナちゃん!?
どう?

カレシと
うまく
いってる?

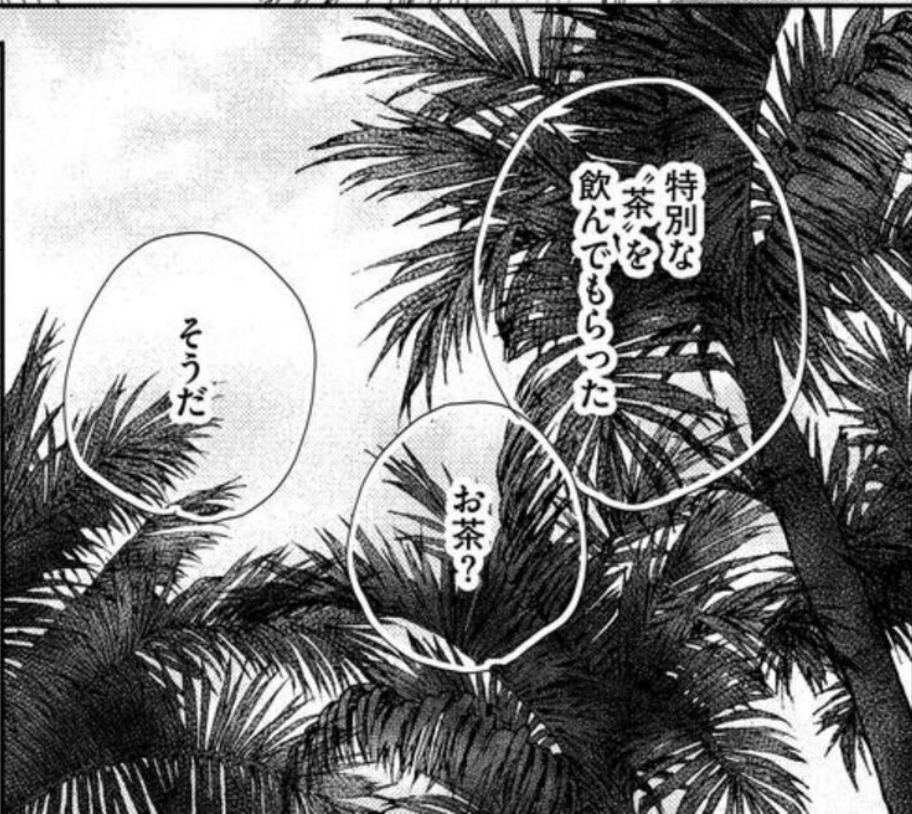
10年ぶりに再会した
フィアンセ
だったんだってねえ?

よかったねえ

はあつつ!?
しし

あつ
そういえば
殿下から
多額の寄付を
いただいたね!

全自動
トイレ掃除機
「丸洗い君」を
導入できたんだよ!





支障もギモンも
アリアリなんです
けど~~~~ツ

いやいや
つつ

……つつ



さあ

これでもう
なんの支障も
疑問もないな



口の中

んん…
つつ

気持ち
イイ…

ん——…つつ



ん…つつ

ん





…したこと
ないのか

それは

うれしいな

んうつつ



では

これは
お気に召して
もらえるかな

あッ

アアッ

やあ…っつ



やだやだ
やだあッ

こんなこと
したこと
ないの…ッ

怖い
からあ…ッ





お……
大きい……

クリ

ム……

ムリムリッ
そんなの

絶対
ムリだから……!



あっつ

アッ

ひ……っつ
あんっつ

あん

らめえっつ

あっ

あっ

…どうだ？
濡れて
きたぞ

コレを挿れたら
きっと
気持ちいい

浅いところから
やさしく
かき回しながら

徐々に
深くして
いったら

やさしい声…

初めて触れる
男の人の熱…

きっと
おかしいくらい
快いはずだ

アッ

アアッ

挿れさせて
くれ

おまえの中に
入りたい

ここで
ひとつになって

一緒に
気持ちよく
なりたいたんだ

ああ…
もう限界…

逆らえない…

頭も体も
沸騰しそう…

これ以上されたら
どうなっちゃうのか

どんな世界が
広がってるのか

体験してみたい…

体験するなら

この人が
いい…

い…痛く
しないで…?





…全部
入ったぞ

痛いかな？

…自分の中に…

あんなに
大きなものが
収まる隙間が

…ふ

んっ

いったい
どこに
隠れてたのかと
思う…



…動く

…どうして
こんなふう
に思っ
てしまうのか

自分でも
わからないけど…

あ…っ

ああッ



このまま
くっついたまま…

離れたくない…

アッ

アッ

アッ

あっ
待…っ

離れたら
体の中にぽっかりと
隙間が空いたみたいになっ
て…

きつと
さみしい…

待って…
あっ

ダメ…

ダメ…エ

ア—…ッ

…まだ
足りない

もっと
もっと
していいか？

ええ…
っっ!?

何回も…!

発行所 株式会社ぶんか社

〒102-8405

東京都千代田区一番町29-6

www.bunkasha.co.jp

※本作品はすべてフィクションです。実在の人物・事件・団体等には一切関係ありません。

※本書の内容あるいはデータを、全部・一部にかかわらず、無断で複製、転載、改竄、上演、放送および公衆送信（インターネット上への掲載を含む）することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。また、個人的な使用を目的とする複製であっても、コピーガードなどの著作権保護技術を解除して行うことはできません。